

ほん この本よむぞう

みづまきまちとしょかん 水巻町図書館 子どもの本

こんげつ 今月のおすすめ

2020年11月号



寒くなりましたね。外になかなか出られない生活はまだ続きそうですが、図書館では、こんな時もゆっくりお家で楽しんでほしい本をしょうかいしていきますよ。



「梨の子ペリーナ」
イタリアのむかしばなし
イロ・カゲイノ再話
関口英子 訳
酒井駒子 絵
【BL出版】



「ちやいろいつつみ紙のはなし」
アリソン・アトリー作
松野正子 訳
殿内真帆 絵
【福音館書店】

梨といっしょにかごに入れられ、王さまの宮殿に運ばれた女の子「ペリーナ」。いじわるなめしつかいのせいで魔女の宝ものを取ってくることになり、おいだされます。かしこいペリーナはしかたなく歩きはじめますが、やさしさをわすれませんでした。

新聞屋さんのたなの上に何か月もすんでいたちやいろいつつみ紙は、とうとう売れて、ある家のクリスマスのおくりものをつつみました。さあ、これからつつみ紙のたびがはじまります。心のそこに小さなあわせをとどけてくれるお話です。



「あるヘラジカの物語」
星野道夫 原案
鈴木まもる 絵と文
【あすなる書房】



裏表紙の1枚の写真。2頭のヘラジカの頭の骨は、角がからまったままです。なぜこんな姿になってしまったのか？星野道夫さんが残した写真をもとに、アラスカのきびしい自然の中で暮らす動物たちの、命のつながりをえがいた物語です。

「タコとイカはどうちがう？」
《いきものくらべるしゃしんえほん》
峯水亮 写真
池田菜津美 文
すぎもとちかとし 監修 【ポプラ社】

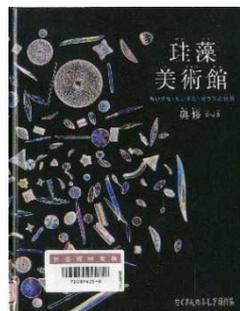


タコとイカのちがいは、うでの数だけではありません。スミをはいて分身を作るのはどっち？卵を命がけで守るのはどっち？光るのはどっち？楽しくくわしく秘密を教えてくれる写真絵本です。



「大きなたまご」
オバー・バターワース作
松岡享子 訳
【岩波書店】

ネイトの家のめんどりが、ある日大きな大きなたまごを産みました。そして出て来たのは、おどろくべきあの生き物だったのです！学者や博物館に協力してもらいながら、ネイトはこの生き物を大切に育てます。アメリカの子どもたちが大好きな物語です。



「珪藻美術館」
ちいさな・ちいさな
・ガラスの世界
《たくさんのふしぎ傑作集》
奥修文・写真
【福音館書店】

表紙に広がる宝石のような写真。これが顕微鏡で見た「珪藻」です。珪藻は、体がガラスの殻に包まれている小さな小さな藻。作者の気が遠くなるような細かい作業の末に見えてくる、美しい世界をお楽しみください。